

事例 12 高等学校のOJT実践事例

大学入試問題を研究して教科指導力の向上を目指す

【進路指導部長として】

本校では、教員の教科指導力を向上させることを目的として、大学入試問題の研究を毎年行っている。研究成果は、冊子にまとめて1・2年生に配布しており、大学進学を目指す生徒たちの指針となっている。若手教員からベテラン教員まで多くの教員が関わる取組であり、教科ごとに議論の場を設けたり、分析結果を授業で活用したりして、若手教員が成長するよい機会となっている。

〈取組の内容〉

○大学入試問題の研究

国公立大学の二次試験が終了した後、問題を入手して分析を進めた。まずは個人で実際に問題を解いて分析し、次に教科内で意見交換会を行った。意見交換会は、若手教員にとってはベテラン教員からアドバイスをもらえるよい機会となっている。また、多くの生徒が志望する大学については、7～9月に教科内で分担して冊子の原稿を執筆した。

【執筆のポイント（1・2年生に向けてのアドバイス）】

- ・ その問題を解くにはどのような学習をすればよいか。
- ・ 普段の授業で大切にすべき点は何か。
- ・ 卒業生が残してくれた再現答案の分析結果はどうか。

○研究成果の活用

分析結果をまとめた冊子を生徒に配布し、授業で活用してきた。生徒に普段の授業が入試問題につながっていることを意識させるとともに、教員自身の授業改善にも生かすためである。また、分析結果から得られた指導ポイントを生かして、次年度の国公立大学の二次試験の受験指導（課外や添削指導）を行っている。

これが成功の鍵！

⑦校務分掌などの校内組織を活用する

進路指導部と各教科部会が連携して行うことで、教科ごとに意見交換を行うなど教科の専門性を高める場をつくり出すことができました。

⑥役割を与える、仕事を任せる

若手教員にも問題分析を担当させることで、普段の授業に生かすことができ、授業力向上に役立ちました。

【若手教員の声】

校内模擬試験の作問や国公立大学二次試験の受験指導などに、とても苦労していました。しかし、この取組により、各大学の出題傾向や設問の意図、必要とされる力について、ベテラン教員から学ぶことができました。

【ベテラン教員の声】

希望する大学に生徒が合格するためには、若手・ベテラン教員関係なく、その大学の問題をしっかり分析して出題傾向を熟知して指導する必要があります。この取組は、学校全体の教科指導力の向上にもつながっていると思います。



分析結果をまとめた冊子

〈取組の成果〉

- ・ 若手・ベテラン教員共に、校内模擬試験、実力テスト、定期テスト等の作問力が向上した。
- ・ 単に入試問題を分析するだけでなく、授業との関連付けを意識することで、教員の教科指導力や国公立大学の二次試験対策などの受験指導力が向上した。
- ・ 分析結果をまとめた冊子を授業で活用し、日々の授業改善につなげた。大学進学を目指す生徒たちにとっては、入試問題が身近なものとなり、学習意欲の向上につながった。